

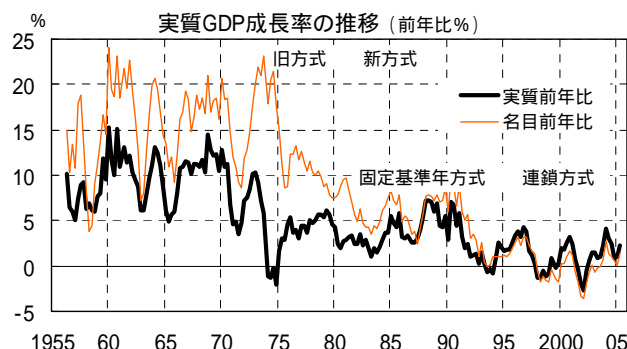
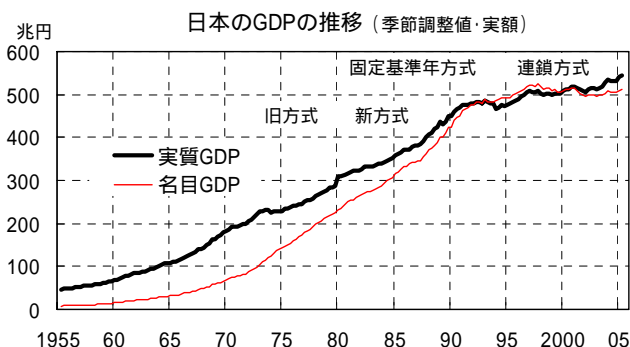
1. 経済成長率とは？

- ・日本経済の全体をみるときの最も重要な指標のひとつ。実質 GDP 成長率でみることが多い
- ・データ源 <http://www.esri.cao.go.jp/index.html>（内閣府）『国民経済計算年報』ほか

2. GDP 統計（国内総生産）をみるときの注意点

- ・一定期間に日本経済全体が産み出した「付加価値」の合計 売り上げではない
- ・**四半期毎**にデータ作成（四半期データ、暦年データ、年度データ）・・・発表までに約1か月半も
- ・1次速報・2次速報・確報（SNA）・・・新しい情報を加味してデータが改訂される
- ・名目値と実質値（基準年時点の価格で換算）・・・両者の違いが「GDP デフレーション」（一種の物価）
- ・四半期データには強い**季節性** 原系列（前年比に意味）と季節調整系列（前期比にも意味）
日本では前年比を注目する経済データが多いが、GDP については「季節調整済み年率」が注目されるようになってきた。前期比のメリット：変化をより早く認識できる
- ・**需要項目別の動き**がわかる：民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備、政府最終消費、公的固定資本形成、財貨・サービスの輸出入（輸入はマイナス項目 輸出はプラス項目）
- ・三面等価の原則：生産、支出、分配が一致する筈・・・国内総生産 = 国内総支出

3. 日本の GDP の推移



- ・名目約 500 兆円、実質約 540 兆円：日本全体では年間約 500 兆円の付加価値を生産
- ・このところ、名目 GDP は横這い傾向・・・前年比は僅かなプラス（時にはマイナス）
実質 GDP は拡大傾向・・・前年比はプラスの傾向（数字のマジック？）
これは、物価が下落していることを意味（近年では、持続的な物価下落を「デフレ」と呼ぶ）
- ・前年比は、上がったたり下がったりの循環を見せている 景気循環（次回）を示唆

4. 戦後日本の経済成長の時期区分

- ・「高度成長期」（1973 年頃まで） 1971 年オイルショック、1973 年**第一次石油危機**
- ・安定成長期（1974～86 年頃まで） 1979～80 年の**第二次石油危機**を克服
- ・「バブル期」（1987～90 年頃まで） バブルの崩壊（1990 年に株価、91 年に地価が反落）
- ・バブル崩壊後の低成長期 円高（1995 年頃）金融不安（1997～98 年頃）
「失われた 10 年」といわれることも。不良債権問題など、バランスシートが注目される

5. 世界経済の大きな環境変化にも注意

- ・東西冷戦の終了 + アジア諸国の経済発展 + 中国の改革開放路線の成功：輸出での競合
- ・IT 革命など産業技術の大きな変化・・・日本経済は追従者にとどまる + 制度対応の遅れ
以上